

# 中国語における自動詞と他動詞の分類について

木村裕章

## 目次

- 0. はじめに
- 1. 中国語の自動詞と他動詞
  - 1.1. 意味による分類
  - 1.2. 形式による分類
  - 1.3. 意味による分類と形式による分類の組み合わせ
- 2. 他動性について
  - 2.1. 動詞の他動性
  - 2.2. 目的語の他動性
- 3. 他動詞のとり目的語
  - 3.1. 目的語の意味役割
  - 3.2. 日本語の分類について
- 4. 中国語の動詞への適用と分類
  - 4.1. 自動詞
  - 4.2. 他動詞
  - 4.3. 自動詞と他動詞の兼類
- 5. おわりに

### 0. はじめに

中国語の動詞には格変化や助詞がないために、自動詞であるか他動詞であるかの明確な判断が難しい。その判断の有力な基準となるのが、その動詞の後に目的語をとれるかどうかということである。<sup>(1)</sup>

- 1) 父亲打了一些野果。〈父は野生の果実をいくつかたたいた〉
- 2) 歹徒杀害了这位进步人士。〈悪者がこの進歩的な知名人を殺害した〉
- 3) 妻子正在看电视。〈妻はちょうどテレビを見ているところだ〉
- 4) 他理解了这个意思。〈彼はこの意味を理解

した〉

- 5) 爱人丢了一个钱包。〈夫（妻）が財布をなくした〉
- 6) 老人听见雷声了。〈老人は雷の音が聞こえた〉
- 7) 家里来了几个客人。〈家に客が数人やって来た〉
- 8) 那些地方发生了一起抢劫案。〈それらの場所で強奪事件が起こった〉
- 9) 我飞了一趟广州。〈私は広州へ1往復（飛行機で）飛んだ〉
- 10) 母亲一直在操心儿子的婚事。〈母親はずっと息子の結婚の事を心配している〉

『現代汉语动词大词典』（以下『現代』と省略、また、例文は特に表記のないものは『現代』

より引用)では、1)の“打”、2)の“杀害”、3)の“看”、4)の“理解”、5)の“丢”、6)の“听见”はすべて他動詞とされており、動詞の後の目的語は動作の対象となっている。これに対し、7)の“来”、8)の“发生”、9)の“飞”、10)の“操心”は自動詞とされており、7), 8)の目的語“客人”“一起抢劫案”は動作主を、9)の目的語“广州”は場所(目的地)を、10)の“儿子的婚事”は原因を表している。

では、中国語における目的語をとる動詞について、それが自動詞であるか他動詞であるかをどのように区別すればよいのであろうか。この問題に関しては、これまで様々な論争がなされてきたが、結局結論というものは得られていない。一体中国語には自動詞と他動詞の分類は可能であるのか、そしてその分類が必要であるのかというのは、これまで棚上げにされてきた問題である。しかし、動詞分類をする上で、動詞の自・他を明確にすることは文法構造を理解するためにも重要なことであり、それを可能にする必要があると考える。

ここでは、従来の分類の基準を参考にして、中国語における他動性を検証し、日本語における分類基準を応用しながら、中国語の自動詞と他動詞のより明確な分類を試みる。

## 1. 中国語の自動詞と他動詞

中国語の動詞の下位分類として、自動詞と他動詞に分けることができる。一般に中国語の動詞において、英語と同じように、後に目的語をとれない動詞を自動詞、目的語をとれる動詞を他動詞とする考え方があがるが、中国語の場合は動詞の後に様々な目的語がきて、自動詞であっても目的語を伴う場合や、他動詞であっても本来の目的語が動詞に前置する場合があります、英語のように単純に考えることはできない<sup>②</sup>。

中国語の他動詞と自動詞を分類するには、何を基準にするかによって異なってくる。具体的には意味的な基準と形式的な基準及び両者を組み合わせた基準の3つがある。

### 1.1. 意味による分類

意味による基準とは、その動詞が他の事物(目的語)に何らかの影響を及ぼすかどうかというこ

とで、影響を及ぼすものを他動詞、影響を及ぼさないものを自動詞とする。この分類は19世紀から20世紀の早期中国語文法界において使用された基準であり、中国語の他動詞が“及物动词”、自動詞が“不及物动词”と呼ばれる所以である。しかし、実際に何を以て「影響を及ぼす」とするのは、明確な格表示を持たない中国語において、非常に難しく、特に中国語を母語とする人々には、この判断にはかえって困難を伴う部分が多いと思われる。

### 1.2. 形式による分類

動詞が目的語をとるかどうかという形式的な違いを判断基準とし、後に目的語をとれる動詞を他動詞とし、後に目的語をとれない動詞を自動詞であるとするものである。

まず、中国語の動詞の中で、目的語が関与する余地がなく項を1つしかとらない、いわゆる“一价动词”<sup>③</sup>はすべて自動詞であると考えることができる。袁毓林1998では常用の“一价动词”として次のものを挙げている。

开(沸く) 灭 醒 嚷 笑 哭 睡觉 搬家  
前进 后退 散步 去 逛 爬 站 蹲 趴  
躺 流 沉 长zhǎng 落 倒 漏 死 产生  
存在 生长 生存 发生 生活 躲藏 出现  
歇 休息 迟到 早退 破 坐 睡 住 洗澡  
理发 跪 逃 来 掉 跑 飞 爬 跳 走  
これらの動詞は1つの成分(動作主)としか関連しないため、自動詞であると判断することができる。

しかし、これらの自動詞であっても動作主を目的語にすることができる場合がある。(例文は袁1998による)

11)a. 水开了。<水が沸いた>

b. 这炉子真旺, 半个小时就开了两壶水。

<このコンロは火が強く、30分で2ポットの  
水が沸く>

12)a. 他在前排坐着。<彼は前の列に座っている>

b. 前排坐着几个人。<前の列に数人の人が座  
っている>

13)a. 这种动物生存在水中。<この種の動物は水  
中に生存している>

b. 海洋中生存着许多不知名的生物。<海には

たくさんの名前も知らない生物が生存している  
る>

11)a, bの“开”、12)a, bの“坐”、13)a, bの“生存”はすべて自動詞であるが、11)bでは動作主である“两壶水”、12)bでは動作主である“几个人”が、13)bでは動作主である“许多不知名的生物”が動詞の後に来て、目的語となっている。では、これらの自動詞が目的語をとる場合、他動詞になっているのかというと、そうではなくて、“一价动词”はあくまでも自動詞であり、中国語の場合、後に目的語を持つ動詞をすべて他動詞とすることはできないのである。

次に中国語の2音節の動詞の中で、その内部の構造が“動詞+目的語(V+O)”である、いわゆる“离合词”は一般的に目的語をとることができないため、自動詞と見なすことができる。

14)a. 老王也和我们见面了。<王さんも我々と会った>

b. \*老王也见面了我们。

15)a. 他最后还是跟一个老同学结婚了。<彼は最後にはやはりある昔の同級生と結婚した>

b. \*他最后还是结婚了一个老同学。

14)a, 15)aの介詞で前置された成分をそれぞれ14)b, 15)bのように動詞の後に持ってくることはできない。

但し、“离合词”の中には目的語をとれるものがある。(例文は木村2002による)

16) 去年冬天, 随着一声火车汽笛的长鸣, 我永远告别了北京。<去年の冬、列車の長く鳴り響く汽笛と共に、僕は永遠に北京に別れを告げたんだ>

17) 全国人民都很关心这个大石油, 它到底还能高产稳产多少年? <全国の人たちが、一体どれだけの間多くの量を安定産出できるのか、みんなこの大石油に関心を持っています>

18) 李华东, 注意态度! <李華東、態度に気を付けなさい>

高1998 (p. 38)によると、《现代汉语搭配词典》(张寿康主编)には動賓構造の複合動詞中、離合詞のもので目的語をとるものには、次のものがあるとされている。

担心 发愁 发誓 放心 奉命 复员 关心  
害怕 留心 留神 留意 募捐 起草 讨厌

投资 献身 想法 宣誓 延期 增产 注意  
しかし、これらの動詞がとる目的語の意味役割は“受事”以外のものなので、あくまでも自動詞に属すると考えることができる<sup>(4)</sup>。

### 1.3. 意味による分類と形式による分類の組み合わせ

上述の意味的な基準と形式的な基準にはそれぞれに長所と欠点があるため、それらを組み合わせた基準というのが最も適した基準であると考えられる。

刘月华等1983では、この立場に立って動詞の自・他について次のように述べている。

“动词按能不能带宾语以及能哪类宾语分为及物动词与不及物动词两类。及物动词主要指能带受事宾语(动作的接受着)的动词。……不及物动词指不能带宾语和不能带受事宾语的动词。”

(動詞は目的語をとれるかどうか、及びどのような目的語をとれるかによって他動詞と自動詞に分かれる。他動詞とは主に“受事”(受動者)目的語をとれる動詞を指す。……自動詞とは目的語をとれず、“受事”目的語をとれない動詞を指す。

この考え方は中国語の動詞の自・他を分類するのに非常に有効である。つまり、自動詞が形式的に目的語をとれる以上、「動詞が目的語をとれる」ということは他動詞である必要条件であるが十分条件ではない。そこで、「目的語の種類が“受事”である」ということを十分条件とするわけである。ただし、この場合問題となるのが、何ををもって“受事”とするかということで、その判断の基準が新たな論点となってくる。実際中国語の文法には目的語の意味役割が何を表すかという表示はなく、それを明確にするには助詞によって意味役割をある程度明確にしている日本語の手助けが必要となってくる。そのことを明確にするために、まず、中国語における動詞と目的語の他動性について検証を行う。

## 2. 他動性について

動詞の後の成分の意味役割を明確にするには動詞が持つ他動性を考慮する必要があり、他動性が強ければ強いほど、目的語は典型的な“受事”と

なり、典型的な他動詞となる。つまり、“受事”を目的語とする他動詞は、典型的なものから非典型的なものへと連続体を成していると考えられることができるのである。ここでは、Hopper & Thompson1980における次の他動性の階層を基にして、動詞と目的語の他動詞を検証する。

図 1.

他動性の階層 (Hopper & Thompson1990, p. 252)

	<low>	<high>
(A) Participants	1 participant	2 or more participant
(B) Kinesis	non-action	action
(C) Aspect	atelic	telic
(D) Punctuality	non-punctual	punctual
(E) Volitionality	non-volitional	volitional
(F) Affirmation	negative	affirmative
(G) Mode	irrealis	realis
(H) Agency	A low in potency	A high in potency
(I) Affectedness	O not affected	O totally affected
(J) Individuation	O not individuated	O highly individuated

## 2.1. 動詞の他動性

### (A) 当事者

動詞が目的語をとるということは、主語と目的語という2つの項を持つので、この条件は前に述べた他動詞の必要条件となる。また、項を1つしかとらない“一价动词”は動詞の持つ他動性が極めて低いとすることができる。

### (B) 動作性

動作性の動詞は非動作性のものより他動性が高いということであるが、目的語をとれる動詞の中で動作や行為を表す動詞は心理活動を表す動詞よりも他動性が高いと考えることができる。

例えば、“殴打”“修理”などの動作・行為を表す動詞は“安慰”“担心”などの心理活動を表す動詞よりも他動性が高いことは、前者は受身文にできるが、後者は受身文にできないことでも確認できる。

19)a. 警察正在殴打学生。<警察がちょうど学生を殴っている>

b. 学生被警察殴打了。<学生は警察に殴られた>

20)a. 哥哥修理好了那个锅炉。<兄はそのボイラーを修理した>

b. 那个锅炉被哥哥修理好了。<そのボイラーは兄によって修理された>

21)a. 大夫安慰病人了。<医者は患者を慰めた>

b. \*病人被大夫安慰了。

22)a. 母亲一直担心着孩子的前途。<母親は子どもの前途をずっと心配している>

b. \*孩子的前途被母亲担心着。

また、これらの現象は (I) の影響度とも関連している。

### (C) アスペクト

完了は未完了より他動性が高いとされるが、動詞の後に完了を表す“了”をつけることができない動詞は他動性が低いと考えられる。

例えば、“爱好”“喜欢”などの心理活動を表す動詞は、その後に“了”をつけることができないので、他動性が低いと考えられる。

23) 这孩子爱好 [×了] 足球。<この子はサッカーが好きだ>

24) 小王喜欢 [×了] 交响乐。<王さんは交響楽が好きだ>

### (D) 瞬時性

瞬時性は途中の経過を含まない瞬時の動作であるかどうかを問題にしているが、瞬間動詞は持続動詞よりも他動性が高いと考えることができる。

例えば、19)の“殴打”は瞬間動詞であり、23), 24)の“爱好”“喜欢”といった心理活動を表す動詞は持続動詞である。

### (E) 意図性

意図的な動作の方が非意図的な動作よりも他動性が高いと考えられる。『动词大词典』では、動詞の分類に関して、動作が意図的な“自主动词”であるか、非意図的な“非自主动词”であるかによって、他動詞と自動詞を次の4つに分類している<sup>5)</sup>。

他动词：自主動詞で目的語に影響を及ぼすもの。

“核对、怀念、重视、感谢、研究、养活、糊、喝”など。

自动词：自主動詞で目的語に影響を及ぼさないもの。“走、跑、站、飞、爆发、工作、休息、出差、开幕、毕业”など。

外动词：非自主動詞で目的語に影響を及ぼすもの。“碰见、知道、丢失、懂”など。

内动词：非自主動詞で目的語に影響を及ぼさない

いもの。“病、死、瞎、塌、输、赢”  
など。

この分類によるならば、他動性の強弱について次のように考えることができる。

## 図 2

他動詞 > 外動詞 > 自動詞 > 内動詞

(強) ← <他動性> → (弱)

### (F) 肯定

肯定か否定かというパラメータはここでは関与していないと思われるが、否定形にできるかどうか、つまり“不”や“没”をつけることができるかということは他動性と関連するかもしれない。

### (G) 法

実現か非実現かは関与しないが、(C) のアスペクトと関連しているとも考えられる。

### (H) 動作主

この項は (E) 意図性と基本的には同じである。

### (I) 影響度

目的語への影響度に関しては、例えば受身文や“把”字句にできるかどうかで判断できる。例えば、(B) で検証した例文で 19) a, 20) a は“把”字句にすることができるが、21) a, 22) a は“把”字句にすることができない。

19) c. 警察把学生殴打了一顿。<警察は学生を一回殴った>

20) c. 哥哥把那个锅炉修理好了。<兄はそのボイラーを修理した>

21) c. \*大夫把病人安慰了。

22) c. \*母亲把孩子的前途担心着。

## 2.2. 目的語の他動性

### (A) 当事者

目的語をとった上で、それがさらにどのような意味役割を持つかによってその他動性が決定される。また、使役文や二重目的語文など関与する項が3つ以上のものは、さらに他動性が高くなると考えることができる。

### (E) 意図性

自主性について考えると、動詞の後の成分は自主性を持っていないと見なすことができる。つまり、他動詞に関しては、主語については自主性・意図性というものを論じられるが、動作を受ける目的語は何ら自主性を持っていない。また、自動

詞に関しては、例文 11) ~ 13) で見たように、動作主に自主性がある場合には文頭の主語の位置にくるが、自主性がない場合、つまり存在・出現・消失を表す場合には動詞の後の目的語の位置に現れると考えることができる。

### (H) 動作主

陳 1994 では、主語と目的語の意味役割をになう優先順位を次のようにしている。

施事 > 感事 > 工具 > 系事 > 地点 > 対象 > 受事

この優先順位では、左にあるものほど動作主性が強いので主語になる傾向が強く、右にあるものほど受動性が強いので目的語になる傾向が強いということである。従って、目的語としては“受事”に近いほど他動性が高く、“施事”に近いものほど他動性が低いと考えることができる。

### (I) 影響度

動詞の動作性・影響度で見たように、受身文や“把”字句のように目的語を動詞に前置できるかどうかで判断できる。

### (J) 個別化

個別化とは具体的には目的語の限定性に関するところである。つまり、目的語の定・不定や目的語を修飾する成分によってその他動性を判断できる。

25) a. 警察逮捕了一名罪犯。<警察は1人の犯人を逮捕した>

b. 警察逮捕了这名罪犯。<警察はその犯人を逮捕した>

c. 警察逮捕了他。<警察は彼を逮捕した>

26) a. 那边来了一个人。<あちらから1人の人が来た>

b. \*那边来了那个人。

c. \*那边来了他。

25) a ~ c の他動詞文では、目的語の位置に“这名罪犯”“他”などの他動性が高い定・不定の名詞句がきても何ら問題はないが、26) a ~ c の自動詞文ではその目的語は他動性が低いものが要求され、“那个人”“他”などの定・不定の名詞句がくることはできない。

## 3. 他動詞のとり目的語

他動詞のとり目的語には様々なものがあり、目的語の持つ意味役割によって多くのものに分類さ

れる。ここでは、特に典型的な目的語に用いられる意味役割について、日本語の助詞を基準にした分類を紹介する。

### 3.1. 目的語の意味役割

中国語の目的語の意味役割としては、様々なものが挙げられているが、ここでは『动词大词典』による次のものを基準とし、検証の対象とする。

第三层次的七类中，主体分三个格：施事、领事、当事；客体分三个格：受事、客事、结果；邻体分三个格：与事、同事、基准；系体分三个格：系事、分事、数量；凭借分三个格：工具、材料、方式；环境分四个格：范围、处所、时间、方向；根由分三个格：依据、原因、目的。总共二十二个格，以组成格系统的第四个层次。

ここでの“主体”は「主語」に、“客体”は「目的語」に相当し、目的語の意味役割として“受事”（受動者），“客事”（対象），“结果”（結果）の3つが挙げられている。この3つの意味役割は典型的な目的語であり、他動詞の目的語に相当すると考えることができる。また、それ以下の意味役割は、基本的には介詞を用いたり、あるいは介詞を用いずに動詞に前置されるが、場合によっては動詞の後にきて目的語となることがある<sup>⑥</sup>。

### 3.2. 日本語の分類について

目的語の持つ意味役割について、日本語では格助詞「を」を伴うかどうかが他動詞であるかどうかの判断の基準となる。

鳥飼浩1993では、次のように説明している。

27) 犬が人をかむ。

28) 犬が人にかみつ়。

「犬が人とかむ」と言っても、「犬が人にかみつ়」といっても意味に大差はないが、「かみつ়」が、「～を」ではなく、「～に」としか言えないという事実は、それなりに意味があろう。「犬が人をかむ」の「人を」は<対象>を表し、主体の動作は<対象>に激しく及ぶことから、「かむ」は他動詞である。一方、「かみつ়」も主体の動作は<相手>に激しく及ぶが、所詮「かみつ়」という行為は、主体の相手に対する付着行為に過ぎない。「かんでくつづ」のである。その意味からも「かみつ়」は自動詞であ

ると考えることができる。

また、格助詞「を」は「道を歩く」「廊下を走る」のように、自動詞にも使われるので、「を」の存在だけで、自他動詞を区別することはできないという反論に対して、氏は逆に、格助詞「を」の表す意味をできるだけ綿密に分析記述することで、自他の区別は可能であると考え、「を」による分類を以下のように行っている。

#### <対象>を表す「を」

①主体の動作・作用が直接的に及ぶもの（いわゆる、典型的な対象を表す目的語）。「火を消す」「ガラスを割る」「顔を殴る」「小包を送る」「酒を飲む」「手を洗う」など、破壊・消滅に至るものから、主体の影響の比較的少ないものまで様々である。「子供を使いに行かせる」などの使役もここに位置づけておこう。

②精神的働きかけの対象となるもの（いわゆる、精神作用としての対象を表す目的語）。「海を見る」「師を敬愛する」「友の死を悼む」「休暇を楽しむ」「合格を喜ぶ」など。

③その動作・作用によって結果的に作りだされるもの（いわゆる、結果目的語）。「家を建てる」「手袋を編む」「仏像を彫る」「『月光の曲』を弾く」「本塁打を打つ」「ボギーをたたく」「お湯を沸かす」「『ハムレット』を訳す」など典型的な結果目的語から、いわゆる同族目的語をとる「歌を歌う」まで。

④使用・操作する対象としての道具（いわゆる、道具目的語）。「鉄砲を撃つ」「ピアノを弾く」「ワープロを打つ」「ミシンを踏む」など。

⑤主体の演じる役割（いわゆる、役割目的語）。「納戸役を務める」「ハムレットを演じる」「カルメンを歌う」「ジゼルを踊る」「四番を打つ」「フルバックを守る」など。

⑥動作・作用の向かう対象としての場所（いわゆる、場所目的語）。「庭を掃く」「ペンキで壁を塗る」など。

⑦動作・作用の向かう対象としての方向（いわゆる、方向目的語）。「西を向く」「磁針が北を指す」など。

#### <対象>を表さない「を」

①移動する場所を表すもの。「道を歩く」「街道を行く」「空を飛ぶ」など。

②経過を表すもの。「東京を經由して日光に行く」「峠を越える(越す)」「門を潜る」「打球が三遊間を抜く」など。

③移動の相対的位置を表すもの。「先頭を走る」「トップに行く」など。

④(経過する)時間を表すもの。「今をときめく」「昼休みを讀書で過ごす」「眠れぬ夜を明かす」「日々を気ままに送る」など。

⑤時間的経路点を表すもの。「思春期を経て大人になる」「もう十二時を過ぎた」など。

⑥基準となる境界線を表すもの。「土俵を割る」「セ氏30度を越える」「平均点を上回る」「参加者は百人を下らない」など。

⑦離脱点を表すもの。「部屋を出る」「故郷を離れる」「大学を卒業する」「会社を辞める」「現役を引退する」「会長職を辞する」「コースを逸れる」「水たまりを避ける」「攻撃をかわす」「非難を免れる」など。

⑧不在の場所や不参加の催しを表す。「学校を休む」「春場所を休場する」「例会を欠席する」「授業をサボる」など。

⑨「何を～(か)」の形で、問題の原因・理由を聞くもの。もちろん、反語としても使う。「何をもめているのか」「何を泣いているの?」「何を驚くことがあろう」など。

#### 4. 中国語の動詞への適用と分類

中国語の他動詞に関して、その後に来る目的語が<対象>を表すものであるかどうかの基準を上で見た日本語での分類に従って見ていくことにする。

黄伯荣1998『動詞分類和研究文献目录总览』では、名詞を目的語にとる動詞1502項を挙げている。この中には1音節の動詞と2音節の動詞があるが、比較分析を明確にするために2音節のもの(計681項)だけを取り出して、検証を行う。

##### 4.1. 自動詞

まず、目的語がとれないもの、あるいは日本語に訳した場合目的語に「を」がつかないものには以下のものがあり、これらはすべて自動詞であると分類できる。

①目的語がとれないもの(65項)

29) 父亲也一直在这个家操劳。<父親もずっとこの家のために苦労している>

30) 河水在不停地流动着。<川の水が絶えず流れている>

31) 他的业余爱好也随着环境变化了。<彼の趣味も環境に従って変化した>

32) 两名战士牺牲了。<2名の兵士が犠牲になった>

<自動詞>

爆发 操劳 成立(2) 出来 出去 答应(1)

捣乱 倒退 躲藏 发愁 分裂(1) 分散

合作 后悔 化装(1) 缓和(1) 活动(4)

结合(1) 鞠躬 扩散 联系 流动(1)(2)

起来(1)(2) 伤心 生长 说情 送行 投降

下去①② 休息 旋转 移动② 拥抱 张望

折腾(1) 争吵

<内動詞>

毕业 变化 恶化 发源 恢复 昏迷

活动(2) 降低② 降落 结束② 开展(2)

流行 散落 散失(2) 骚动 闪烁 闪现

竖立 衰退 耸立 突出② 牺牲(1) 下降

消失 摇晃② 增加② 增长② 震动(1)

中断①

②目的語に「が」がつくもの(動作主と見なせるもの)(8項)

33) 这座城市又一次爆发了革命。<この都市にまた革命が勃発した>

34) 眼前出现了幻觉。<目の前に幻が現れた>

35) 两个人产生了隔阂。<2人に隔たりが生じた>

<自動詞>

爆发

<内動詞>

充满 出现 发生① 流传 弥漫 飘扬

<外動詞>

产生

③目的語に「が」がつくもの(動作の対象と見なせるもの)(1項)

36) 小妹听见了老鼠的叫声。<末の妹はネズミの鳴き声が聞こえた>

<外動詞>

听见

④目的語に「に」がつくもの(75項)

37) 老李参加了这个会。<李さんはこの会に参

加した>

- 38) 组长反对这种做法。<班長はこのようなやり方に反対している>
- 39) 丈夫很关心妻子。<夫は妻にとっても気を使っている>
- 40) 我很满意这个学生。<私はこの学生にとっても満足している>
- 41) 我碰见一个老朋友。<私は古い友人にばったり出会った>
- 42) 弟弟成绩已接近高考录取线。<弟の成績はもう大学の合格ラインに近づいた>
- 43) 老李擅长针灸。<李さんは針灸に長けている>
- 44) 他富有开拓精神。<彼は開拓精神に富んでいる>
- 45) 那年轻人成为一名诗人了。<その若者は詩人になった>

<他动词>

报复 抱怨 驳斥 参加 参与 答复 打击  
当心 抵抗 督促 对待 对抗 反对 反抗  
方便 放心 符合 服从 负责 回答 干涉  
感谢 辜负 关心 怀疑 回答 接触 警告  
纠缠 抗议 靠近 留神 留心 满意 便宜  
迁就 请教 请示 缺乏 涉及 提醒 同情  
同意 突击(1) 挖苦 危害 违反 小心  
依靠 依赖 影响 应付 遇到 遇见 赞成  
嘱咐 注意

<外动词>

合乎 碰见 适合 适应 遇到 遇见

<自动词>

达到 加入(2) 接近 联络 攀登 屈服  
深入 遵照

<内动词>

擅长 善于

<领有动词>

富有 属于

<系动词>

成为 等于

『現代』では、目的語に「に」がつくものであっても他動詞に分類しているものが多くある。しかし、これらの動詞が目的語に「影響を及ぼす」と見なすことには問題があると思われ、ここでは、これらの動詞を自動詞と分類する。

⑤目的語に「について」がつくもの(13項)

- 46) 劳资双方正接洽工资问题。<労使双方はちょうど給与問題について相談している>
- 47) 大伙儿琢磨着他的话。<みんなは彼の言葉について考えている>
- 48) 他们争论过这个问题。<彼らはこの問題について論議したことがある>

<他动词>

辩论 检讨 接洽 评论 商量 商议 声明  
讨论 协商 议论 琢磨

<自动词>

交涉 争论

⑥目的語に「と」がつくもの(5項)

- 49) 农民们正在斗争这个地主。<農民たちはちょうどこの地主と闘争している>
- 50) 我们要联合起一切爱国人士。<我々は愛国の士と連合しなければならない>

<他动词>

比较 斗争 结合(2)

<自动词>

联合 配合

⑦目的語に「の」がつくもの(1項)

- 51) 我们班比赛足球。<我々はサッカーの試合をする>

<自动词>

比赛

次に、目的語に「を」がつくものの中で、<対象>を表さないものには次のものがある。

①移動する場所を表すもの

中国語の場合も“走、跑、飞”などの1音節の動詞がこれに当たる。

- 52) 我们走过几回山路。<我々は山道を何回か歩いたことがある>

- 53) 他跑了几个城市。<彼は町をいくつか駆け回った>

②経過を表すもの(2項)

- 54) 游行队伍正经过大桥。<デモ隊はちょうど大橋を通っている>

- 55) 两只小狐狸悄悄地通过了院子。<2匹のキツネがこっそりと庭を通った>

<自动词>

经过 通过

③移動の相対的位置を表すもの



中国語の場合も“走、跑”などの1音節の動詞がこれに当たる。

56) 四百米接力二班跑第一。 <400メートルリレーで2組は1位を走った>

④ (経過する) 時間を表すもの

中国語の場合も“过、睡”などの1音節の動詞がこれに当たる。

57) 我们全家过了个春节。 <私たち一家は旧正月を過ごした>

⑤ 時間的経路点を表すもの (1項)

58) 我们的友谊已经过了漫长的岁月。 <私たちの友情はもう果てしない年月を過ぎた>  
<自動詞>

经过

⑥ 基準となる境界線を表すもの (1項)

59) 他的月收入超了500元。 <彼の月収は500元を越えた>

<外動詞>

超过

⑦ 離脱点を表すもの (5項)

60) 这个代表团都离开了北京。 <この代表团はもう北京を離れた>

61) 他们正在躲避炮弹。 <彼らはちょうど砲弾を避けているところだ>

<他動詞>

摆脱 避免 离开 脱离

<自動詞>

躲避

⑧ 不在の場所や不参加の催しを表す。

中国語では“不上课，不上班”のように否定形で表現される。この場合、目的語は関与することはない。また、「欠席する」「サボる」に相当する“缺席”“旷课”などは離合動詞で自動詞となり、その対象となるものを目的語にとることはできない。

⑨ 「何を～(か)」の形で、問題の原因・理由を聞くもの (1項)

中国語の場合でも、“哭、争吵”などの動詞がこれに当たる。

62) 哭什么? <何を泣いているの>

63) 你们争吵什么? <君たちは何をけんかしているんだ>

<自動詞>

争吵

以上を合計すると、自動詞に分類できるものとしては178項ある。

#### 4.2. 他動詞

目的語に「を」がつくものについて、<対象>を表すものを他動詞とすることができる。

① 主体の動作・作用が直接的及ぶもの

“受事”である目的語、つまり「主体の動作・作用が直接的に及ぶもの」で、「破壊・消滅に至るものから、主体の影響の比較的少ないものまである」わけであるが、どの動詞がどれだけの影響度を持つかを判断することは一見しただけでは難しい。そこでその影響度の違いを明確にするため、影響を受けた後の目的語の変化を基準にして、いくつかのグループに分類することにする。

A. 目的語が外的変化を伴うもの (145項)

64) 我们要打倒封建主义。 <我々は封建主義を打倒しなければならない>

65) 学校处罚了两个学生。 <学校は2人の学生を処分した>

66) 国家派遣了一支考察队。 <国は視察団を派遣した>

67) 我们消灭了不少老鼠。 <我々はたくさんのネズミを消滅させた>

a. それ自体が外的ダメージを受けるもの

<他動詞>

刺激 打倒 打破 颠倒 讹诈 分割

分裂(2) 粉碎 干扰 攻击 进攻 虐待

殴打 破除 破坏 敲诈 侵略 驱逐

扰乱 杀害 伤害 撕毁 算计(3) 损害

损坏 挑拨 推翻 陷害 糟蹋(1) 折腾(3)

折磨 征服

<外動詞>

危害

b. 処理・処置・整理・修理されるもの

<他動詞>

处罚 搭配 安排 办理 处理 登记 解决

配备 清理 拾掇 收拾 调整 维修 修改

修理 整顿 整理 治理

c. 空間的に移動されるもの (A→B)

<他動詞>

安插 调动 动员 分配 分散 积累

- 加入(1) 排列 派遣 迁移 移动① 引进  
运输 转移
- d. 消滅・排除されるもの(有→無)  
 <他动词>  
 解除 开除 排除 抛弃 取消 扫除 淘汰  
 消除 消灭 葬送
- e. 動かされるもの(静→動)  
 <他动词>  
 发动 活动(1) 解放 解散 开动 开始  
 摇晃 震动(2)(3)
- f. 動きを止められるもの(動→静)  
 <自动词>  
 中断② 阻挡 阻止  
 <他动词>  
 防止 结束 平息 挽留 稳定 制止 阻碍
- g. 制限・コントロール・圧迫されるもの  
 管理 禁止 控制 扣留 强迫 束缚 限制  
 压迫 镇压 支配
- h. 表にあらわにされる・暴かれるもの  
 <他动词>  
 暴露 揭发 揭露 透露 突出① 泄露  
 <外动词>  
 流露
- i. 集める・まとめられるもの  
 <他动词>  
 搭配 概括 集合 集中 收藏 收集 搜集  
 统一 召集 综合 总结
- j. 包囲・隠されるもの  
 <他动词>  
 包围 埋葬 掩盖 隐瞒
- k. 解放・開発されるもの  
 <他动词>  
 解放 开发 开放 开辟 开拓
- l. 展開・普及させるもの  
 <他动词>  
 开展(1) 普及 推动 推广
- m. ばら撒かれるもの  
 <他动词>  
 散布 散发
- n. その他  
 <他动词>  
 安装 把握 布置 牵连 强调 拖延 掌握  
 装饰

- <外动词>  
 耽误
- B. 目的語が内的変化を伴うもの(42項)
- 68) 丈夫改正了吸烟的毛病。<夫はタバコを吸う癖を直した>
- 69) 经理又增加了点儿工资。<支配人はまた給料を上げた>
- a. 正常な状態に戻されたり、さらによい状態に変化させられるもの(悪→良)
- <他动词>  
 端正 锻炼 发展 放松 丰富 改变 改革  
 改进 改善 改造 改正 缓和(2) 加强  
 矫正 校对 精简 纠正 扩充 培养 提高  
 治疗
- b. 増加・拡大されるもの(小→大)  
 扩大 増加① 增长① 展开
- c. 減少・縮小されるもの(大→少)  
 减少 降低① 缩小 削減 压缩
- d. 変化させられるもの  
 转变
- e. 発生させられるもの(無→有)  
 发生②
- f. 心理的变化を促されるもの  
 感动 鼓动 鼓励 鼓舞 轰动 恐吓 煽动  
 威胁 吓唬 引诱
- C. 目的語自体が変化を伴わないもの(動作主からの動作・行為の対象となるもの)(247項)
- 70) 孩子的父母表示了这个意思。<子どもの両親はその意思を表した>
- 71) 老师报告了一个好消息。<先生は1つのよい知らせを告げた>
- 72) 当地渔民捕捉了一条娃娃鱼。<現地の漁民がサンショウウオを1匹捕まえた>
- 73) 他们损失了几百万元。<彼らは数百万元を損失した>
- a. 動作主から表に現れるもの(内→外)  
 <他动词>  
 表达 表明 表示 表现 表演 发表 发挥  
 发扬 公布 广播 交代(2) 批发 声明  
 施展 抒发 坦白 提倡 体现 宣布 宣传  
 主持(2)

- b. 動作主から相手に渡されるもの  
 <他动词>  
 报告 发行 告诉 反映(2) 贡献 回答  
 汇报 交换 交流 介绍 申请 授予 提供  
 替换 通知 推荐 退还
- c. 動作主に獲得・受け取られるもの  
 (外→内)  
 <他动词>  
 霸占 剥削 捕获 捕捉 采购 承担 承受  
 逮捕 得到 夺取 俘虏 呼吸 继承 交代  
 接受 拒绝 骗取 赏识 收获 收买 贪污  
 体会 吸收 消化 争夺 争取  
 <外动词>  
 获得 取得 享受 赢得  
 <内动词>  
 容纳
- d. 動作主に消失・紛失されるもの  
 <他动词>  
 失掉 牺牲  
 <外动词>  
 散失 丧失 失去 损失 遗失
- e. 動作主から知識・指導を受けるもの  
 <他动词>  
 教育 开导 领导 启发 指导 指挥
- f. 動作主に知識・習慣を獲得されるもの  
 <他动词>  
 练习 学习 训练 研究 养成 钻研
- g. 動作主に選択・決定・区別されるもの  
 <他动词>  
 表决 规定 决定 判断 区别 确定 识破  
 提拔 挑选 选举 选择 指定
- h. 動作主に接近・搜索されるもの  
 <他动词>  
 搜查 寻找 追求
- i. 動作主に点検・検査・評価・批判を受けるもの  
 <他动词>  
 保证 表扬 采访 测量 测验 承认 调查  
 分析 讽刺 核对 计较 计算 监督 监视  
 检查 奖励 考验 控诉 盘问 批判 批评  
 批准 数落 听取 信任 责备 指点 追查
- j. 動作主に承認・認識されるもの  
 <他动词>  
 承认 答应(2) 抵赖 否认
- k. 動作主に保護・援助を受けるもの  
 <自动词>  
 防守  
 <他动词>  
 爱护 帮助 保护 保卫 救济 守候 挽救  
 维护 协助 掩护 拥护 照顾 照料 拯救  
 支持 支援
- l. 動作主に補充・補填されるもの  
 <他动词>  
 补充 补助 赔偿
- m. 動作主に所持・持続されるもの  
 <他动词>  
 保存 保持 保留 坚持 率领 维持 占领  
 占有  
 <外动词>  
 包含 包括  
 <领属>  
 具备 具有
- n. 動作主が行う行為・負担する仕事  
 <他动词>  
 重复 分担 负担 贯彻 进行 举办  
 举行 履行 实践 实现 实行  
 突击(2) 折腾(2) 执行 主持(1)
- o. 動作主に準備・用意されるもの  
 <他动词>  
 操持 筹备 预备 酝酿 准备
- p. 動作主が経験するもの  
 <他动词>  
 忍受  
 <外动词>  
 经受
- q. 動作主に接待・招待を受けるもの  
 <他动词>  
 接待 聘请 邀请 优待 招待
- r. 動作主に説明・証明されるもの  
 讲解 解释 说明 证明
- s. その他  
 <自动词>  
 等待 等候  
 <他动词>  
 参观 参考 打听 代表 代理 发现 访问  
 欢送 欢迎 记录 节约 蒙蔽 欺骗 请求  
 劝解 上演 说服 饲养 算计(1)(2)(4)

探望 调解 委托 慰问 吸引 掩饰 演出  
养活 迎接 招呼 遵守

<外动词>

反映(1)

②精神的働きかけの対象となるもの(69項)

74) 母亲一直在操心儿子的婚事。<母親は息子の結婚の事をずっと心配している>

75) 你要安慰他痛苦的心灵。<あなたは彼の苦しい気持ちを慰めなければならない>

76) 他很尊敬自己的老婆。<彼は自分の奥さんをととても尊敬している>

77) 他忘记了电话号码。<彼は電話番号を忘れた>

<自动词>

操心 讲究 庆祝 祝贺

<他动词>

爱好 爱惜 安慰 称赞 打量 担心 惦记  
妒忌 估计 观察 观赏 怀念 怀疑 回忆  
忌妒 纪念 考虑 克服 夸奖 夸耀 理解  
了解 领会 埋怨 满足 盼望 佩服 轻视  
热爱 忍耐 认识 思考 思念 算计(3)  
体谅 体贴 听说 推测 侮辱 羡慕 相信  
想念 晓得 欣赏 要求 预料 原谅 阅读  
赞美 糟蹋(2) 征求 知道 指望 指责  
重视 捉弄 尊敬 尊重

<外动词>

害怕 忽视 记得 明白 认得 疏忽 熟悉  
忘记 误会 误解 需要

③その動作・作用によって結果的に作りだされるもの(結果目的語)(27項)

78) 王先生还创造了一种新的研究方法。<王さんはさらに1つの新しい研究方法を創り出した>

79) 他们树立了较高的威信。<彼らはかなり高い威信を打ち立てた>

<他動詞>

抄写 成立(1) 出版 创造 发明 建立  
建设 建筑 刻画 描写 描述 拟定 捏造  
设计 设想(1) 生产 树立 突击(2) 伪造  
形成 叙述 引起 印刷 增产 制定 制造  
组织

④使用・操作する対象としての道具(道具目的語)(10項)

80) 他操纵着那台机器。<彼はその機械を操作している>

<他動詞>

采取 采用 操纵 驾驶 利用 挪用 使唤  
使用 应用 运用

⑤主体の演じる役割(役割目的語)(5項)

81) 陈刚扮演反面人物。<陳剛は悪い人物を演じる>

<他動詞>

打扮 扮演 担任 化妆(2) 伪装

⑥動作・作用の向かう対象としての場所(場所目的語)

中国語の場合、“擦、塗”などの1音節の動詞がこれに当たる。例えば、

82) 值日生在擦黑板。<日直が黒板を消している>

⑦動作・作用の向かう対象としての方向(方向目的語)

中国語の場合、“朝、向”などの1音節の動詞がこれに当たる。例えば、

83) 这间房间向东。<この部屋は東向きだ(東を向いている)>

以上を合計すると、他動詞に分類できるものとしては545項ある。

そして、これらの他動詞の持つ他動性の強弱にはおよそ次のような関係があると考えられる。

### 図3

<強> ← 他動性 → <弱>

①A>①B>③>①C>②>④⑤⑥⑦>自動詞

#### 4.3. 自動詞と他動詞の兼類

1つの動詞が自動詞でもあり、他動詞でもあることを、自動詞と他動詞の兼類であるという。兼類の状況には次の二つがある。一つは1つの動詞が異なる複数の意味を持ち、それが自動詞と他動詞に分かれる場合で、もう一つは1つの動詞が持つ1つの意味が自動詞と他動詞に分かれる場合である。

前者の場合には特に1音節の動詞について顕著である。例えば、“开”という動詞は黄伯荣1998によれば、次の意味を持つとしている。

(1)開ける (2)切り開く (3)解ける (4)取り除く (5)運転する (6)(店を)開く (7)始める (8)(会議を)開く (9)(書類を)書く (10)支払う (11)沸く (12)平らげる (13)開設する。

これらはほとんどが他動詞とされるが、このうち

(3)は“外動詞”であり、(11)は自動詞(“内動詞”)である。

84) 背心开了个口子。<シャツに穴があいた>

85) 那壶水开了。<そのポットのお湯が沸いた>  
従って、「开」は他動詞である」ということはできず、自動詞と他動詞の兼類であると見ることができる。これ以外にも多くの1音節の動詞が同様の状況から自動詞と他動詞の兼類であると考えられる。また、ここで検証した2音節の動詞の中では次のものがある。

86) 孩子答应了一声。<子どもは答えた>

87) 母亲答应了这件事。<母はこの事を承諾した>

86)の“答应”は「答える」という自動詞であり、87)の“答应”は「承諾する」という他動詞である。これらの動詞には次のものがある。

答应 活动 化妆 结合 设想 折腾 主持  
また後者の場合、つまり1つの意味が自動詞と他動詞に分かれる場合、2音節の動詞では次のようになる。

88) 细胞分裂了。<細胞が分裂した>

89) 这伙人分裂了研究会。<この人たちが研究会を分裂させた>

88)の“分裂”は「分裂する」という自動詞であり、89)の“分裂”は「分裂させる」という他動詞である。このような動詞には次のものがある。

成立 发生 分裂 降低 结束 开展 满足  
突出 移动 增加 增长 震动 中断

ここで注意しなければならないのは、次のような動詞はあくまでも他動詞であり、自動詞と他動詞の兼類とは見なさない。

90) 他们出版了这部专著。<彼はこの専門書を出版した>

91) 这部专著已经出版了。<この専門書はすでに出版された>

90)における“出版”は「出版」するという他動詞であり、91)の“出版”は一見それに対する自動詞のように思われる。しかし、この文は“都”の前に“他们”などの動作主が省略された文であり、“这部专著”は主題化されたにすぎず、“出版”は、あくまでも他動詞なのである。そのことは、日本語の訳が「された」という受身になっていることから判断できる。このような動詞としては他に“解放”などがある。

## 5. おわりに

ここでは主に、目的語につく日本語の助詞に基づいて中国語の動詞を分類し、これまでよりもさらに1歩踏み込んだ分類をすることができたと思う。しかし、中国語の実情を考慮すると、さらに問題点が存在することも事実である。

例えば、ここでは自動詞の分類について目的語に「に」がつくものを挙げたが、その対象が人であるのか物であるのかでさらに分類が可能であり、そこには他動性の強弱も存在すると考えられる<sup>(12)</sup>。また、ここで他動詞に分類した「心理活動を表す動詞」のすべてが他動詞であるかどうかという点に関してもさらに検討を要するであろう。それから、ここでは検討の対象から外した1音節の動詞についても、自動詞であるか他動詞であるか、あるいは兼類であるかという分類を推し進めることが可能である。

これら残された問題については、今後の課題として取り組んでいきたい。

## 註

(1) ここで用いる「目的語」とは中国語の“宾语”に相当し、単純に動詞の後にくる名詞性成分のことを指す。

また、目的語のうちで次のように時間や距離を表すものは名詞とは見なせず、ここでは目的語には含めない。

i) 父亲为我们操劳了一生。<父は私たちのために一生あくせくと働いた>

ii) 火车倒退五十米。<列車は50メートル後退した>

(2) 例えば、1), 3), 5)の例文では目的語を動詞に前置させることができる。

1)' 树上的野果都打下了。<木の上の野生の果実はすべてたたき落とした>

3)' 电视已经看完了。<テレビはもう見終わった>

5)' 钱包丢了。<財布をなくした>

この場合主語に当たる動作主は省略されており、前置された“树上的野果”“电视”“钱包”は一見主語のように見えるが、これらの名詞句はあくまでも目的語であり、その目的語が主題化や対比によって動詞の前に移動した結果生じた文であると考えられることができる。

(3) 動詞の分類として、その動詞がいくつの項をとれるか(“配价”)で分類を行うことができる。“配价语法”では、1つの項をとるものを“一价动词”、2つの項をとるものを“二价动词”、二重目的語のように動作主を含め3つの項をとるものを“三价动词”と分類している。

(4) 例えば、例文16), 17)の文は介詞を用いて次のように言うことができる。

16)' 我永远向北京告别了。

17) 全国人民都对这个大石油很关心。

これらの動詞の原型はこの介詞を用いた文であり、文の簡素化のために便宜的に介詞句にある目的語が動詞の後の目的語位置に現れていると考えることができる。また、逆に他動詞の場合はこのように介詞を用いた表現ができないこともその1つの理由となる。

- (5) この分類は『現代』とまったくおなじものであり、分類に関する説明は『動詞大辞典』の方が詳細になされているので、この説明を紹介する。

また、李1990では“外動詞”“内動詞”という用語をそれぞれ他動詞・自動詞に対応するものとして使用しており、ここでの自主動詞と非自主動詞という概念は問題にされていない。

凡動詞，它所显示的动作为不涉、延续于某种物体、现象或处所，结构上不能带宾语，这样的动詞是内動詞。凡動詞，它所显示的动作为需要涉、延续于某种物体、现象或处所，结构上可以带宾语，这样的动詞是外動詞。内動詞和外動詞，有的语法著作里叫做不及物動詞和及物動詞，或自动詞和他動詞，名称术语不同而所讨论的内容是一样的。

- (6) 例えば、徐枢1985からの次の例文 i) の目的語“毛笔”の意味役割は“工具”(道具)であり、ii) の目的語“肺病”の意味役割は“原因”である。

i) 他喜欢写毛笔。<彼は筆で書くのが好きだ>

ii) 那时，我正在养肺病。<その時、私はちょうど肺病のために療養していた>

- (7) いくつかの項は(1)(2)…, ①②…というように意味が分かれ、複数の分類に属する場合があります、延べ数は681項を上回る。

また、1音節の動詞については、その意味が1つ2つにとどまらないものが多い。例えば、“打”という動詞は黄伯荣1998によれば、次の複数の意味を持っているとしている。

- (1) 打つ・たたく (2) 壊す (3) 殴る (4) 交渉する  
(5) 建造する (6) 製造する (7) かき混ぜる (8) 縛る  
(9) 編む (10) 塗りつける (11) 開ける (12) 掲げる  
(13) 放つ (14) もらう (15) 取り除く (16) 買う  
(17) 捕える (18) 刈り取る (19) 算定する (20) 従事する  
(21) (スポーツなどを)する (22) (あくびを)する  
(23) (ある方法)をとる

“打”の場合は、これらの意味がすべて「を」がつく目的語をとるため、“打”を他動詞とすることに問題がないが、動詞によってはさらに複雑なものがある。

これに対し、2音節のものは持つ意味が3つ以内に収まるものがほとんどで、兼類する場合でも同じ意味であることが多く、分析が容易である。

黄1998で以下のものを名詞目的語をとる動詞としているが、これらは実際には名詞目的語をとることができないものである。黄1998では例文が一切挙げられていないため、ここでは『現代』に挙げられている例文を参考に

して、判断の基準とする。

- (8) <自动詞><内動詞>(意味的にはどちらも「自動詞」)、<他動詞><外動詞>(意味的にはどちらも「他動詞」)及び<領属動詞><系動詞>といった分類はすべて『現代』による。ここでは自動詞であるか他動詞であるかを分類するので、<自动詞>と<内動詞>、<他動詞>と<外動詞>を分類する必要はないかもしれないが、意思動詞であるか非意思動詞であるかが自動詞と他動詞の分類に影響を及ぼしている可能性があり、今後の研究の参考とするために、そのまま『現代』に従った分類を採用している。

- (9) 一般的に“毕业”などは目的語を取ることができず、i) a, bのように言わなければならない、i) cのように言うことはできない。

i) a. 王先生1928年毕业于黄埔军校。<王先生は1928年に黄埔軍事学校を卒業した>

b. 王先生1928年从黄埔军校毕业了。

c. \*王先生1928年毕业黄埔军校。

但し、“毕业”が目的語をとる場合があり、その場合目的語の位置に来るのは全体に対する部分を表す動作主に限られる。

ii) a. 这三十个学生毕业了。<この30人の学生は卒業した>

b. 中文系毕业了三十个学生。<中文学科では30人の学生が卒業した>

この場合、ii)の“这三十个学生”は動作主であるが、定の名詞句なので、文頭の主語・主題の位置に来るが、ii)の“三十个学生”はやはり動作主であるが、不定の名詞句で、動詞の前に来ることができず、構造としては存現文の形をとっている。

- (10) これらの動詞の動作主は本来文頭の主語の位置にあるが、動作主に自主性がなく、存在・出現・消失を表す場合、このように目的語の位置に現れる。

i) 1911年辛亥革命爆发了。<1911年辛亥革命が勃発した>

ii) 这个人物就出现了。<その人物が現れた>

- (11) 他にも兼類と考えられる次の2音節の動詞がある。

产生 发展 改变 感动 集合 集中 减少  
开动 开放 开始 普及

『現代』によれば、これらは自動詞であるという記載がなく、ここでは兼類とは見なさないが、さらに検討の余地があると思われる。

- (12) 「他動性」に関して言えば、“影响”“涉及”などをここでは自動詞としていることについては、検討を要すると思われる。

#### 参考文献

相原茂・楊凱榮1990。「自動詞と他動詞——中国語と日本語——」、『国文学解釈と鑑賞』、至文堂。

- 陈昌来2002.『现代汉语动词的句法语义属性研究』,学林出版社。
- 陈平1994.「试论汉语中三种句子成分与语义成分的配位原则」,『中国语文』第3期。
- 范晓1996.『三个平面的语法观』,北京语言文化大学出版社。
- 早津恵美子1995.「有对他動詞と無对他動詞の違いについて——意味的な特徴を中心に——」,『動詞の自他』,ひつじ書房。
- Hopper, Paul J and Sandra A. Thompson 1980. “Transitivity in Grammar and Discourse”, *Language* 56.
- 胡壮麟1999.「系统功能语法与汉语语法研究」,『语法研究入门』,商务印书馆。
- 黄伯荣1998.『动词分类和研究文献目录总览』,高等教育出版社。
- 木村裕章2001.「中国語における動賓構造の複合語内部の結合性について」,『東亜法学論叢』第6号,東亜大学。  
—— 2002.「中国語における目的語をとる離合詞について」,『北九州中国言語文化研究論集』第10号。
- 国広哲弥1989.「自動詞と他動詞」,『言語』,大修館書店。
- 李临定1990.「动词分类研究说略」,『中国语文』第4期。
- 陆俭明1991.「现代汉语不及物动词之管见」,『汉语研究和探索(五)』,语文出版社。
- 光信仁美1993.「自動詞と他動詞の対応についての一試案——文の意味構造の視点から——」,『麗澤大学紀要』第57卷。
- 須賀一好1995.「自他違い——自動詞と目的語、そして自他の分類——」,『動詞の自他』,ひつじ書房。
- 須賀一好・早津恵美子1995.「<解説編>動詞の自他を見直すために」,『動詞の自他』,ひつじ書房。
- 周昭孝1992.「自動詞の他動性と他動詞の自動性について」,『PACIFICA』第4号,帝塚山学院大学国際文化学科。
- 高見健一・久野暉『日英語の自動詞構文——生成文法分析の批判と機能的解析——』,研究社。
- 鳥飼浩一1993.「自他動詞の認定をめぐる序論」,『言語』5月号,大修館書店。
- 王俊毅2001.「及物动词与不及物动词分类考察」,『语言教学与研究』第5期。
- 吴为章1999.「动词研究述要」,『语法研究入门』,商务印书馆。
- 徐枢1985.『宾语和补语』,黑龙江人民出版社。
- ヤコブセン, ウェスリー・M1989.「他動性とプロトタイプ論」,久野暉・柴谷方良編『日本語学の新展開』,くろしお出版。
- 袁毓林1998.『汉语动词的配价研究』,江西教育出版社。  
『动词大词典』林杏光审定,鲁川主编,中国物资出版社。  
『现代汉语动词大词典』林杏光・王玲玲・孙德金主编,北京语言学院出版社。